

第 32 回委員会会議結果概要(案)

開催概要	
日 時	平成 22 年 10 月 12 日(火) 17 時 30 分～19 時 30 分
場 所	千葉県国際総合水泳場
参加者数	52 名
出席委員	18 名(遠藤茂勝、工藤盛徳、榊山勉、及川七之助、澤田洋一、中村泰利、上野菊良、竹川末喜男、三橋福雄、歌代素克、後藤隆、佐々木洋晁、松崎利光、田草川信慈(代理：東条等)、赤塚稔、大林正章、大野二三男、齋藤甚一) ：委員長
結果要旨	
報告事項	
第 31 回委員会の開催結果概要	
事務局から資料 1 により説明後、質疑応答	
[主な意見及び対応]	
・まちづくりができあがった段階で用途変更を行うとあるが、そのような手法はあるのか。 土地利用が確実にってから用途変更を行う手法がある。(市川市)	
平成 22 年度第 1 回勉強会の開催結果概要	
事務局から資料 2 により説明後、質疑応答	
[主な意見及び対応]	
・「前回の議論でも海岸保全区域は変更しないこと」の記述があるが資料 1 には無い。どちらが正しいか。 議事録を確認する(事務局) <u>確認の結果、「海岸保全区域を変えた事例があるが、一度決めたこの区域で進めていきたい。(大野委員)」との発言を確認。</u>	
議題	
1 丁目護岸構造について	
事務局から資料 3 による説明後、質疑応答が行われた。	
[主な意見及び対応]	
・シミュレーションの前提条件は、設計波が周期的(規則波的)に来襲するように設定しているのか。 1 丁目で過去に起きた最大の波を規則波的に来襲するように設定している。(事務局)	
・経済的に有利であり、波返しを備えたケース 4 がいい案と考える。 (まとめ) <u>基本断面はケース 4 とし、今後はこれを基に進めることとする。</u>	

2丁目護岸バリエーションについて

2期地区護岸バリエーションについて（階段ブロック）

[主な意見及び対応]

- ・宮脇委員からはブロックではなく、自然石を多く使いたいと言われていたと思う。その対応として資料のとおり、ブロックの穴の部分に自然石を埋めたり、ブロック自体に石を埋め込む案を出しているのか。

そうである（遠藤委員長）

- ・コンクリート面が出ても気にならないと思う。周囲が自然石だから逆によいのでは。階段の踏み面はコンクリートで十分である。石などを入れると危ない。
- ・ブロックの中央に穴が開いているものは、安全面に問題無いのであれば、緑化しても面白い。
- ・この資料では階段デザインのイメージが掴めない。出来上がりの分かる資料が必要である。
- ・景観の議論は主観的な面が大きいため、個々の意見が全て反映されるとするのは難しい。意見の中から採用できるものを取り入れる工夫をしていくことが必要。

(まとめ)

次回、事務局案を基に一般の人にも分かるような資料を提示する。

1期地区護岸バリエーションについて

[主な意見及び対応]

- ・背後の公園はどうなるか分からないので、背後の胸壁が高くなるよう案（護岸セットバック案）は採用すべきではない。法先も施工済みの箇所を見ると、ある程度変化が付いているので、これ以上変化をつける必要は無いと思う。
- ・水に入れて、触れられることがみんなの望みである。セットバックして降りられるようになるのであれば、それを検討した方がいい。
- ・砂付けは海岸保全区域内でないと出来ないのか。海に下りて老若男女が遊べるのが希望である。

塩浜2丁目の護岸改修は国からの補助で実施している。この事業の目的は高潮なのでこの事業で砂付けを行うことはできない。県が進める保全事業となる。（事務局）

- ・水に下りるべきなのかどうかをしっかりと議論すべきである。安全面の話をすると、水に浸かってしまう部分はコケが生えて滑りやすくなり、危険が予想される。
- ・現状でもカキがいて危険である。海に下りるのは前面に砂が付くことが前提である。
- ・市川市は市民が何を望んでいるか、意見を吸い上げるべきである。
- ・1期地区も2期地区の資料のように、2mセットバックした案を基本として検討をして欲しい。

(まとめ)

海岸保全区域の中だけで砂付けが可能なのかを技術的に詰める。

海に下りることに対する安全対策を整理する。